

藤岡家所蔵 猿の美術

丙申

ひのえさる

ろばなし い
爐話は出てゐしといふ猿のこと

ふじおかぎよつこつ
藤岡玉骨



「五猿図」 作者不明 推定江戸時代

期間・平成28年1月5日（火）～3月26日（土）

〒637-0043 奈良県五條市近内町 526 ☎・FAX 0747 (22) 4013

登録有形文化財「藤岡家住宅」管理法人 NPO法人やかたうちのの館

info@uchinono-yakata.com <http://www.uchinono-yakata.com>

高校生以上 300 円・小中学生 200 円・20 名様以上 2 割引

月曜休館。祝日のときは翌日休館。午前 9 時～午後 4 時



藤岡玉骨作「桃猿」（木製）

丙申（ひのえさる）～藤岡家所蔵「猿」の美術～

平成 28 年 1 月 5 日（火）～3 月 26 日（土）

登録有形文化財「藤岡家住宅」で、猿歳にちなむ美術資料を展示します

これまで整理した所蔵資料の中で、猿を描いた軸は 3 点。いずれも江戸時代の製作と考えられます。「竹屋町織掛軸」という軸箱に納められていた「桃猿図」は京都の竹屋町で織られた「竹屋町裂（たけやまちぎれ）」を地に用いた軸で、茶・萌黄・紺色などの色の紗の地に平金糸の鳥の文様が織り出されています。竹屋町裂は元和年間（1615～1624）に堺にきた中国人から得た技術と言われ、見応えのある一点です。「五猿図」（作者不明、推定江戸時代）は 5 匹の猿を描いた名品です。作者の名前はありません。この資料は軸木の内部に謡曲の一節かと思われる文言を記した書き付けが入っていました。吉野三所権現である蔵王権現（金峰山寺）、子守権現（吉野水分神社）、勝手権現（勝手神社）の名が詠まれています。現在のところ、猿の絵との関係は判明していません。竹内栖鳳の画集「栖鳳小品画集」（大正 7 年 末廣 柴田定吉発行）には 2 点の猿の図がありました。「提灯鐘」「寓話」、画題の用い方にも栖鳳らしい洒脱が感じられます。森狙仙の猿の軸は虫を掴む表情が圧巻です。郷土玩具の「木の葉猿」（熊本県玉名市）は奈良時代初期の伝承をもっています。都の落人が虎の齒の里にわび住いした際、春日明神の瑞夢によって出来たと言われ、藤岡玉骨が熊本県知事であった時代（昭和 11 年頃）に手に入れたものです。その他、藤岡玉骨が掘った猿。英国人医師であり宣教師であった合信（ホブソン）が著した「博物新編」（明治 5 年）の中に描かれた猿、磯谷恵一氏・佐紀子氏共作「猿兎蓋けんどう箱」なども展示します



竹屋町裂「桃猿図」江戸時代・織物
(全体像と部分)



竹内栖鳳 小品画集より (左)「提灯鐘」(右)「寓話」



(左) 森狙仙画「猿図」軸 (部分)



木の葉猿 (熊本)



「博物新編」合信（ホブソン）著
明治 5 年より「猿類」



(下) 猿兎蓋けんどう箱
レリーフ製作 磯谷恵一
ちりめん布細工及び和紙細工
製作 磯谷佐紀子